

平成20年度 年報

# 駒ヶ岳・大沼



【平成20年6月 洞爺湖サミット記念 国際ワークキャンプより】

森林環境保全ふれあいセンターは、

国有林野を活用し、自然再生や生物多様性の保全に取り組むNPOや森林環境教育に携わる教育関係者等の活動を技術的に支援する組織として、平成16年4月に設置されました。



国民の森林・国有林

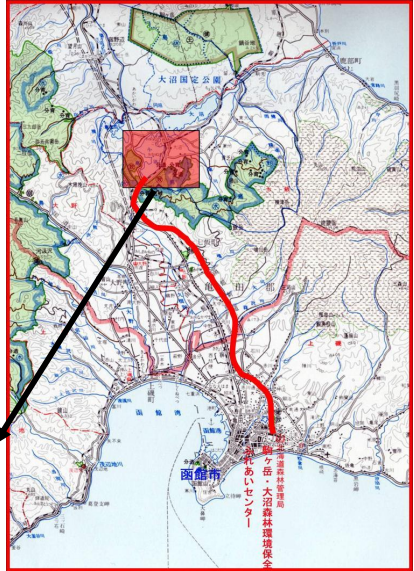
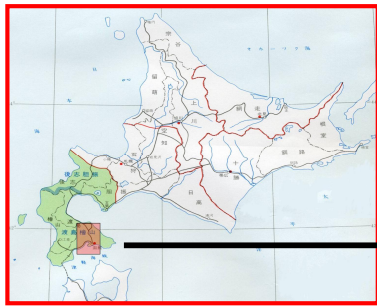
林野庁 北海道森林管理局  
駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター

# 大沼地域自然再生等モデル事業の取り組み

モデル事業地は、大沼国立公園エリアに所在し、漁業関係者から水質保全、観光関係者から景観の維持向上、自然保護関係者から鳥獣生息環境の維持向上等が強く求められているなど、環境保全や森林整備に係る関心や期待の高い地域となっています。

このため、モデル事業の推進について、自然保護関係者や民間ボランティア団体等の代表者で構成する検討委員会を開催し、モデル事業地の箇所を選定、森林の取り扱い、事業の推進方法等についてのランドデザインを作成するとともに、地域等が大沼地区の国有林に求めているニーズをモデル事業に反映するよう努めることにしています。

「大沼地域自然再生等モデル事業」は、地域住民等と連携し、**「多様性のある森林への再生」**と当該地及び近接地において**「森林環境教育の推進」**を主とし、取り組みを進めることとしています。



- ＝ 検討委員会 ＝**
- 平成16年度  
ランドデザイン作成ために3回実施。
  - 平成17年度～平成19年度  
ランドデザインに基づく事業内容の検証及び検討のためそれぞれ2回実施。

## ☆ 「大沼自然豊かな森づくり協議会」の開催

平成20年4月24日（木）に「大沼自然豊かな森づくり協議会」の総会を開催しました。

当日は、「森林環境教育の推進」（西大沼国有林の樹木博士認定コース）の作業現地において、コースの現況や昨年ササを刈り払った箇所での植生の広がりなどを確認し、意見交換を行いました。

また、現地での確認後、南北海道大沼婦人会館に移動し、宮崎会長（大沼漁業協同組合代表理事組合長）を議長とし、総会を実施しました。

★当協議会は、大沼地域自然再生等モデル事業のランドデザインに基づき、森林の再生活動を行うことを目的として平成17年4月に組織されたものです。



協議会参加団体等名
大沼漁業協同組合
大沼町内会連絡協議会
大沼の水と緑を守る会(NPO)
大沼マイルストーン22(NPO)
北海道森林鳥類調査室クマケラ研究会(NPO)
函館地方国有林退職者緑の募金推進協議会
その他個人会員
関係行政機関

# ☆ 多様性のある森林への再生

大正14年植栽ドイツトウヒ人工林と昭和56～58年植栽トドマツ人工林、及び昭和27年度植栽カラマツ人工林の22.90haの森林を、地域ニーズを踏まえた生物・水質・景観など多様性のある森林へ誘導します。【具体的には、周辺の天然林を参考とした森林へと育成します】



ドイツトウヒ人工林



ドイツトウヒ複層伐跡地



針広混交林へ誘導



カラマツ人工林

「多様性のある森林への再生」箇所において、様々な取り組みを行っています。平成20年度の主な実施内容は、次のとおりです。

平成20年5月12日（月）に自然観察会と題して、大沼地域自然再生等モデル事業地「多様性のある森林への再生」箇所（吉野山国有林）において、ボランティア団体含む12名が参し実施しました。この観察会は4月に開催した協議会総会の中で、今までのモデル事業地内で取り組んだ各施業について、多様性へと向かっている現状を「皆で再確認しよう！」ということで計画されたものです。

小鳥がさえずる春の心地よい日差しの中、参加者はミズナラを植栽した箇所やトドマツの保育間伐を実施箇所などを見学、また、林内に可憐に咲いているチゴユリ、ノビネチドリなどの草花に心を癒され、「多様性」を体感しながら充実した時間を過ごしました。



チゴユリとノビネチドリ

平成20年7月14日（月）に「大沼地域自然再生等モデル事業」の「多様性のある森林への再生」エリアにおいて、ボランティア活動により下刈作業を実施しました。

作業地は、吉野山国有林で、大正14年植栽のドイツトウヒの伐採跡地であり、平成17年・18年度にボランティアにより植栽したミズナラや天然で発生しているエゾヤマザクラ、ハリギリ等の稚幼樹が多く発生している箇所で、クマイザサや草類からの被圧を取り除くため、毎年この時期に作業を実施しています。

当日は、新聞等の公募により参加した一般参加者と大沼自然豊かな森づくり協議会のメンバー総勢26名が参加し、作業前には、当ふれあいセンター所長から「多様性のある森林への再生」の趣旨、また下刈作業の目的・効果を説明した後、10時から12時まで2時間の行程で下刈作業に汗を流し、途中、雨雲がかかり心配される天候でしたが、参加者の熱意により、最後まで雨にあたることなく無事に終了することができました。

作業後には、「疲れたけど気持ちよかった」「少しでも多様性の森林につながってくれば」「来年も是非参加したい」等々の話がされ、それぞれが満足そうな面持ちで、お茶でのどを潤していました。



網倉所長からの挨拶



国際ワークキャンプは、世界の若者が2～3週間一緒に暮らし、住民達と、環境・文化保護、福祉、農村開発などに取り組む、国際ボランティアプロジェクトです。これを3か月の長期で行うキャンプを「中長期国際ワークキャンプ」といいます。今年度は、日本では福岡県黒木町と七飯町大沼の2箇所で行われています。



この大沼地区には、ここ数年、ワークキャンパー達が集まり、環境保護をテーマとした森林作業や大沼の水質保全、周遊道路の清掃等の取り組みを実施しており、今年も7月20日から10月11日までの期間、韓国、チェコ、ポーランド、日本の青年達がボランティア活動に取り組みました。吉野山国有林のモデル事業地においては、トドマツ人工林の間伐作業・下刈作業や道路補修（敷砂利・横断排水ゴム板設置 等）など、環境保護を目的とした活動を実施しました。



また、9月2日からの2週間は「大沼国際環境ワークキャンプ」も実施され、16名の青年達（韓国、チェコ、ポーランド、ロシア、ドイツ、ベルギー、日本の7カ国からの参加）が森林作業の環境ボランティア活動を行い、それぞれが同じ価値観を共有しながら、ともに汗を流しました。



作業初日 道具整備



下刈作業



保育間伐作業



道路補修（敷砂利）作業



平成21年2月27日（金）、モデル事業の「多様性のある森林への再生」箇所において、この区域に隣接しているカラマツ林（面積7.99ha）が新たにエリアとして追加になったことから、今後の施業の方向性を確認・共有するため、検討委員会メンバー16名による現地検討会を開催しました。



このカラマツ林は昭和27年度に植栽され、伐期を迎えているため、この伐採方法や路網の整備等について、現地を踏査する中で意見交換を行いました。今後は今回出された貴重な意見を基に、委員や地元住民と連携を図りながら更なるモデル事業の推進に取り組むことを全員で確認しました。

平成21年3月16日（月）に、七飯町において「大沼地域自然再生検討委員会」を開催しました。当日はこの会議の開催に先だち、「多様性のある森林への再生」箇所において保育間伐作業を実施する予定でしたが、悪天候により作業はやむなく中止としたところですが、会議に集まった大学生含むボランティアの皆さんにもオブザーバーという形で出席して頂き、総勢32名により開催されました。



会議では、平成20年度モデル事業の事業内容の検証及び平成21年度の事業内容等についての検討、及び新たに当エリアに編入したカラマツ林の今後の施業方法などの議題を提起して、活発な議論により、今後の進め方について一定の方向性が得られました。